

■ 全体講評

今回の午後Ⅰ記述式試験では、選択率の高い問1の正答率が他の問題に比べて高かったですが、次に選択率の高い問2の正答率が低かったため、午後Ⅰ記述式試験の平均得点は、本試験における合否の判定基準である、満点の6割前後に収まると判断します。

午後Ⅰ記述式試験では、60点前後に得点が集中しました。59点で不合格になるケースもあります。したがって、“設問で問われている内容の答えになっているか”という観点で、全ての解答を確認するようにしましょう。

午後Ⅱ論述式試験では、当方に守秘義務があるので詳しいことは書けませんが、最新のトピックを活用して論じている論文が散見されました。そのため、高いレベルの試験になることが予想できます。本試験まで、専門家としての“考え”や、“工夫した点”をアピールするために論文設計するという考え方を徹底しましょう。加えて、これから説明する解答作成のノウハウを確認して得点力をアップし、確実な合格を目指しましょう。

■ 記述式試験

記述式試験において突破レベルをクリアするために留意すべき点を、記述式問題別に挙げておきます。具体的には、各問題の講評を参照してください。

【問1 青果卸業者の取引システムの改修】

(1)設問文にある“～の観点から”という解答条件を厳守する

(2)解けていると思っている解答について、提出直前に“設問文にある解答条件”を中心に解答を見直す

【問2 チケット在庫調整システムの開発】

(1)空欄の前後を確認して穴埋めの字句を決定する

(2)問題文の粒度と解答の粒度を合わせる

(3)設問で問われている内容と解答の語尾を合わせる

【問3 問合せ管理システムの改修】

(1)設問にある解答例に倣って解答を作成する

(2)問題文中のキーワードを意図的に盛り込む

【問4 IoT, AI を利用したスマートバスシステム】

(1)設問にある解答条件に該当する問題文の記述の有無を確認する

記述式問題を解く上での一般的な留意点を、次に挙げておきます。

(1)記述式問題では実質ページ数に留意する

問題の量で問題を選択する場合、ページ数や設問数だけで、問題を選択するのではなく、表などに小さい字で

書かれていないかについてもチェックしましょう。

(2)設問にある解答条件を全て満たす解答を作成する

特に“～の観点から”という記述に着目してください。これは、考えられる複数の解答から、解答を絞り込むための条件です。必ず、この条件を満たすようにしましょう。

(3)解答済みの設問を見直し、難易度の低い設問を確実に得点する

難易度の高い設問を解けることも重要ですが、難易度の低い設問を確実に得点して、点を積み重ねることが合格には不可欠です。したがって、時間が余ったら、既に解けていると思った設問の解答についても、全ての解答条件を満たしているか、という観点で確認するようにしましょう。

■ 論述式試験講評

論述式問題では、読みにくい、基本的な部分がない、あるいは、論文としての体裁が整っていない解答がありました。次に留意点を、優先順に挙げます。

(1)詳細を説明する場合は先に概要を述べる

急に詳細な内容を説明されても、採点者はイメージできず、結果的に読みにくい論文と評価される可能性が高まります。詳細を論じるときは、概要を説明してから“具体的には～”などと展開するとよいでしょう。

(2)採点者が採点しやすい論文を作成する

設問で問われている内容、すなわち、採点者が知りたい内容がどこに書いてあるか分からない論文では、高得点は望めません。できるだけ、設問文にある言葉だけを使って、設問文に沿った章立てをすることを薦めます。もちろん例外もありです。

(3)質問事項の回答漏れをなくす

解答用紙の先頭にある質問も採点対象です。論述後に書こうと思っている人に、記入漏れが多いようです。遅くとも論文設計が終わったら、質問書へ記入するようにするとよいでしょう。

試験開始前にも問題がないことを確認した上で、試験開始前に解答用紙を開いて質問事項を確認しておくといよいでしょう。そのとき、設問イや設問ウの論述開始箇所も確認しておきましょう。

(4)計画やシステムの名称は例に倣って書く

質問事項において、最初に問われている30字が計画やシステムの名称になっていないものが多いです。例を基に自分でチェックしましょう。計画やシステムの名称を例に倣って修飾すること、例と同じ語尾になることも大切です。本番の試験でも、質問事項は採点対象なので、

漏れなく回答するようにしましょう。

(5)論文は1枚ずつ書く

書いた文字が重なり合った状態で、その上から字を書くとき、双方のページに字が写るので、論文は1枚ずつ書くことがよいです。

(6)事例の詳細を書く

一般論を書いているのは、合格は難しいです。問題にもよりますが、「一般的には～」などと書かないようにしましょう。「～という～の特徴を踏まえて」など、論述の題材とした事例の特徴を踏まえて論旨展開をすることが重要です。

(7)論文の体裁を整える

採点には大学の教員も担当することもあります。細かい点ですが、できれば、以下の点に留意してください。

(a)禁則処理をする

(b)箇条書で、節を書き始めない、書き終えない

(c)「いただく」、「頂く」、「お客様(固有名詞を除く)」などの丁寧語は使わない

(d)「思う」は使わない

(e)括弧は、「(以下、～という)」以外では使わない

(f)問題にある漢字をひらがなや誤った字で書かない

(g)略字を書かない

(h)「である」調に統一する

(i)誤字に留意する。例えば、「購買」を「購売」、「実績」を「実積」などと書かない

(j)箇条書のタイトル以外で、体言止めを使わない

(k)500字を超える長い段落は読みにくいので、適切な長さで段落を構成する

以上、細かいですが、このような点に着目して採点をするケースもあると考えてください。

次に午後の記述式試験の詳細な講評を説明します。

<午後Ⅰ>

【問1 青果卸業者の取引システムの改修】

【講評】

設問文にある“～の観点から”という解答条件を厳守するように解答を作成する。具体的には[設問3]の(2)が該当します。問題文にある“仲卸業者からの一括予約に関する問合せに迅速に対応できるように、販売した青果物が、どの予約に対応しているかを確認できるようにしてほしい”という記述から解答を導きます。後半の記述から導いている解答が散見されました。設問文にある“利用者の観点から”という記述を根拠に、前半の記述から“仲卸業者からの一括予約に関する問合せに迅速に対応する”などと解答できるようにしましょう。

解けていると思っている解答について、提出直前に“設問文にある解答条件”を中心に見直す。具体的には

[設問4]の(2)が該当します。設問文にある“表1のファイル名と属性名を使って”という解答条件を満たしていない解答が散見されました。中には、ある空欄の解答は解答条件を満たしている、ある空欄の解答は満たしていないというものもありました。見直しの時間が少しあれば得点できた可能性が高いです。解けていない設問に注力することも大切ですが、解けたと思っている解答を見直すことも同様に大切です。

[設問1] 70%ほどの正答率の高い設問でした。

[設問2] 70%ほどの正答率の高い設問でした。

[設問3] (1)“一括予約”や“生産者”のない解答が散見されました。厳しいですがキーワード不足を根拠に不正解としました。

(2)“販売した青果物が、どの予約に対応しているかを確認できるようにする”という解答が散見されました。厳しいですが、設問文にある“利用者の観点から”という解答条件を根拠に、“仲卸業者からの一括予約に関する問合せに迅速に対応する”旨の解答を正解としました。

(3)70%ほどの正答率の高い設問でした。

[設問4] (1)70%ほどの正答率の高い設問でした。

(2)厳しいですがファイル名を含まない解答は不正解としました。

【採点基準】

[設問1] “仕入番号と仕入明細番号”及び“仕入ファイルと仕入明細ファイル”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、その他は基本的に0点。

[設問2] 空欄aとb:解答例と同じものに対し各4点、その他は基本的に0点。

[設問3] (1)“一括予約”と“生産者”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、その他は基本的に0点

(2)“仲卸売業者”及び“一括予約”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、その他は基本的に0点。

(3)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、その他は基本的に0点。

[設問4] (1)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、その他は基本的に0点。

(2)解答例と同じものに対し各4点、その他は基本的に0点。

【問2 チケット在庫調整システムの開発】

【講評】

空欄の前後を確認して穴埋めの字句を決定するようにしましょう。具体的には、[設問1]の空欄bが該当します。空欄の直後に“以上”という記述があるにもかかわらず

ならず、穴埋め部分の解答として“在庫しきい値+1以上”という解答が散見されました。これでは“以上”が重複してしまいます。

問題文の粒度と解答の粒度を合わせるように解答を作成しましょう。具体的には、[設問 2] (1)が該当します。“販売ステータスが実体と一致しない”という旨の解答がありました。問題文では、“未販売”や“販売済”という販売ステータスについて具体的に書かれているにもかかわらず、この解答では、どのように一致しないのかわかりません。問題文の粒度と解答の粒度を合わせて、問題文にあるキーワードを盛り込むように解答しましょう。

設問で問われている内容と解答の語尾を合わせるように解答を作成しましょう。[設問 2] (2)が該当します。設問では“狙い”が問われているにもかかわらず、“～から”という語尾の解答がありました。

[設問 1] 空欄 b において“在庫しきい値”という解答が散見されました。空欄 a は“在庫しきい値未満”であることが分かっているので、空欄 b を“在庫しきい値”とすると、表 2 の項番 2 の状況・条件が成立して、在庫は移動しない点を確認しましょう。

“在庫しきい値+1以上”という解答もありました。空欄部分の直後を確認して穴埋め字句を作成するようにしましょう。

[設問 2] (1)厳しいですが“未販売”と“販売済”を含まない解答は不正解としました。

(2)設問で問われている“狙い”に答える語尾の解答になっていない解答については厳しいですが不正解としました。

[設問 3] 解答解説にあるとおり、最後に販売を再開する I 社 Web サイトなので“I 社 Web サイト”を必須としたかかったのですが、正答率が下がりすぎるので、必須とはしませんでした。

[設問 4] (1)50%ほどの正答率でした。

(2)60%ほどの正答率でした。

【採点基準】

[設問 1] 各空欄が解答例と同じものに対し各 3 点、その他は基本的に 0 点。

[設問 2] (1)“未販売”と“販売済”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、その他は基本的に 0 点。

(2)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、その他は基本的に 0 点。

[設問 3] 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、その他は基本的に 0 点。

[設問 4] (1)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 5 点、その他は基本的に 0 点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、その他は基本的に 0 点。

【問 3 問合せ管理システムの改修】

【講評】

設問にある解答例に倣って解答を作成するようにしましょう。具体的には、[設問 3] (1)の設問文にある“問合せ内容と担当者が選択した回答・対応策というデータの組合せ”が設問にある解答例に該当します。この解答例に倣って“問合せ内容と製造部門が策定した回答・対応策”という解答を導きます。

問題文中のキーワードを意図的に盛り込むように解答を作成しましょう。具体的には、[設問 4] (2)が該当します。問題文中にある“15 分ごとにユーザ認証を行うという非機能要件が設定されている”という記述を読んで、“非機能要件”が解答に絡んでくると予想できるとよいでしょう。

[設問 1] 空欄 a, b ともに 90%ほどの正答率でした。

[設問 2] (1)70%ほどの正答率でした。

(2)対応品質が向上する旨だけの解答については、厳しいですが不正解としました。対応品質の底上げが課題となっていた点を踏まえた解答を正解としました。

[設問 3] (1)設問文にある解答例に倣っていない解答や、“部門名を含めて”という解答条件を満たしていない解答は不正解としました。

(2)正答率が 20%ほどの難易度の高い設問となりました。

[設問 4] (1)80%ほどの正答率でした。

(2)厳しいですが“非機能要件”を必須としました。

[設問 5] 60%ほどの正答率でした。

【採点基準】

[設問 1] 空欄 a : 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は基本的に 0 点。

空欄 b : “品質上の問題”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は基本的に 0 点。

[設問 2] (1)“品質上の問題”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は基本的に 0 点。

(2)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は基本的に 0 点。

[設問 3] (1)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点、その他は基本的に 0 点。

(2)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点、その他は基本的に 0 点。

[設問 4] (1)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点、その他は基本的に 0 点。

(2)“非機能要件”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切

に指摘されているものに対し6点、その他は基本的に0点。

〔設問5〕解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点、その他は基本的に0点。

【問4 IoT, AI を利用したスマートバスシステム】

【講評】

設問にある解答条件に該当する問題文の記述の有無を確認するようにして解答を導くようにしましょう。具体的には〔設問2〕(1)が該当します。解答条件である“精算機能に基づいて”という記述を基に、問題文にある精算機能の説明を確認します。問題文を確認すれば、カードIDの数を使って乗車人数を数えていることが分かります。“乗車時には乗車人数に加算し、精算時には乗車人数を減算する”などという解答を作成することが回避できる可能性が高まります。

〔設問1〕(1)70%ほどの正答率でした。

(2)60%ほどの正答率でした。

(3)50%ほどの正答率でした。

〔設問2〕(1)精算機能の説明を参考にしていないと推測できる、“乗車人数から精算人数を減算する”という解答が散見されました。厳しいですが不正解としました。

(2)70%ほどの正答率でした。

(3)それぞれ60%ほどの正答率でした。

〔設問3〕“路側機”が含まれない解答が散見されました。路側機を経由してスマートバスに送信することを読み取っていない解答については、厳しいですが不正解としました。

【採点基準】

〔設問1〕(1)“高い精度”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点、その他は基本的に0点。

(2)“道路の渋滞情報”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点、その他は基本的に0点。

(3)“危険な運転”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点、その他は基本的に0点。

〔設問2〕(1)“カードID”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点、その他は基本的に0点。

(2)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点、その他は基本的に0点。

(3)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各4点、その他は基本的に0点。

〔設問3〕解答例と同じものに対し7点、その他は基本的に0点。

＜合格に向けて＞

みなさん、自分の改善すべき点を確認して、合格を決めましょう。次のような改善策があります。参考にしてください。

【午前Ⅰ・Ⅱ多肢選択式問題】

基本の学習方法は、過去問題を解き、解答解説を含めてしっかりと勉強することです。分からない点はテキスト学習でカバーするとよいでしょう。素晴らしい論文を書いている受験者に、前回不合格になった原因を聞くと、午前Ⅱにおいて足切りになった方が多いことが分かります。午前Ⅰ免除の方も、午前Ⅱ対策については、試験直前まで、継続するようにしましょう。

【午後Ⅰ記述式問題】

過去問題の演習を中心に学習を行い、解答については、本試験と同様に鉛筆で書くようにしましょう。解答と正解例のギャップをチェックして、それらに違いが生じた原因を簡単に分析するとよいでしょう。

記述式問題では、設問の条件を全て満たす解答を作成することが重要です。**解答欄に記入する前にもう一度解答条件をチェック**してみましょう。

【午後Ⅱ論述式問題】

鉛筆で書いていない解答が散見されます。指定の鉛筆で書くようにしましょう。

制限時間内に書くためには、問題文の趣旨に沿って事例の詳細を展開させるように書くことが重要です。ただし、**問題の趣旨を、なぞるように書く論文が散見**されます。しっかりと事例の詳細を盛り込んで掘り下げて書くことが重要です。加えて、一般論を展開するのではなく、**対象業務の特徴や、情報システムの特徴を踏まえて、論旨展開**することが大切です。

“また、～した”などと書いて専門家としての“考え”をアピールしていない論文や、語尾を“～した”から“～という工夫した”などと、語尾だけを変えた論文が散見されます。工夫をアピールするためには、工夫する必然性を採点者に説明する必要があります。例えば困難な状況を説明してから施策を論じる展開が効果的です。

経験側ですが、自宅において3時間ほどで書ければ、本試験において2時間以内で書ける可能性は高くなります。論文練習を含めて本試験では、書き終わったら必ず解答を見直すようにしてください。本試験では、論述が終了した受験者が時間を無駄に使っている状況が散見されます。“**自分が書いた解答を見直す**”ことができれば、他の受験者との競争優位点になりますから、必ず、実行してください。

—以上—